

事業報告

スポーツを、いつでも、どこでも、いつまでも

第21号

令和3年10月5日発行

トピックス

- 研修会報告
- TOKYO2020 ボランティア参加報告
- 事業報告
- 耳よりの情報

発行：練馬区スポーツ推進委員会
 問合せ：練馬区スポーツ振興課振興係
 電話：5984-1948
 メール：SPORTS05@city.nerima.tokyo.jp



障害者とスポーツ交流のための勉強会

5月26日(福)同愛会東京事業本部古山恵治氏を講師にお呼びし、「地域で暮らすために生涯学習(スポーツ)を学ぶ」をテーマに勉強会を実施しました。障害をお持ちの方の情報の捉え方やコミュニケーションにおける配慮を改めて学ぶことにより、スポーツをともに行う上での接し方を考えさせられる場となりました。



今回学んだことを今後の活動で実践していきたいと思えます。

区民歩行会

9月25日に36人の参加者と区民歩行会を実施しました。緊急事態宣言中の実施であったことから、東京都東久留米市の黒目川と落合川周辺を歩くコースとしました。清流と豊富な湧水のある竹林や雑木林では、サギやカワセミ、ハグロトンボ等に出会うなど、自然を楽しみながらのウォーキングとなりました。



参加者からは、「区の近郊でありながら初めて歩いた場所であり、新鮮だった。別の季節もまた訪れてみたい。」といった声をいただきました。

地域のスポーツイベントに協力参加しました

ライフ・チャレンジ・ザ・ウォーク(SSC 大泉主催事業)

6月6日に光が丘公園でSSC大泉が主催するウォーキングイベントが行われました。スポーツ推進委員会のほか、SSC光が丘、SSC桜台が協力団体として参加しました。スポーツ推進委員会は、「ポッチャ」と「フライングディスク」を担当し、参加者と一緒に楽しみました。



中村児童館 ポッチャ教室

中村児童館で、8月23日に小学1~6年生約60人を対象にポッチャ教室を行いました。パラリンピック開幕前日でもあり、子どもたちも興味津々。ポッチャの歴史やルール説明をした後、ボールの手触りを確かめ、投げ方の練習をして、試合形式で楽しみました。最初は少し緊張ぎみな子どもたちでしたが、慣れてくると投げ方も上手になり時間のたつのも忘れて楽しんでいました。



耳よりの情報 ~中村南スポーツ交流センターリニューアルオープンイベント~(10月10日)

半年間、工事休館していた中村南スポーツ交流センターが、10月1日から再開しました。区とSSCの共催事業であるスポーツフェスティバルをリニューアルオープンイベントとして10月10日に無料で実施します。当日はマスク着用など新型コロナウイルス感染防止対策を行ったうえで、ボールを使って子どもたちが体を動かしながら遊べる内容を企画しています。スポーツの秋を楽しみましょう。是非、皆様お越し下さい。



編集後記：コロナ禍の生活、いかがお過ごしですか。TOKYO2020大会が終わりました。世界のアスリートの技を見て、スポーツの持つ力と素晴らしさを再発見しました。皆さんはいかがでしたか？マスクの着用や人数制限等ありますが、身近なところで体を動かし、心と体をリフレッシュしましょう。「スポーツかわら版21号」をお読みいただき、ありがとうございました。過去の発行分は、練馬区ホームページからご覧いただくことができます。(S.K)

研修会報告

練馬区スポーツ推進委員会は、これまで委員の資質向上および委員間の連携を目的とした研修会を積極的に行ってきました。今年度は、会議の時に円滑なディスカッションを行うことを目標とし、「ファシリテーション手法」を身につけるために2つの研修会を実施しました。その概要を紹介し、皆様もこの記事をご参考にファシリテーション手法を身近な場で取り入れてみてはいかがでしょうか。

第1回 ファシリテーション研修~基礎編~(6月24日実施)

第1回の研修会は、特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会理事の長橋良智氏を講師にお呼びし、「ファシリテーション」の基本について学びました。

ファシリテーションとは、人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りを行うことです。

研修では、グループで課題に対して個々のアイデアを表明し、類似の意見を集約し、結論を出すというグループワークを行いました。自分と異なる人の意見を取り入れ、結論を出すことはなかなか困難であることを改めて学びました。実践の場でも、様々な意見がある中で意見をまとめなくてはなりません。そのため、この手法により結論を導き出すことは、今後円滑に事業を行うための新たな引き出しとなるものでした。この日だけでファシリテーションの技術を身につけることは困難でしたが、学んだことを今後の会議等でさっそく活かしていきたいと思えます。



第2回 ファシリテーション研修~応用編~(7月17日実施)

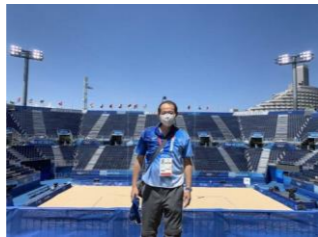
第2回は、グループの一人が中立の立場となり、グループの結論を導くというディスカッションを行いました。ディスカッションのテーマは「SSC(総合型地域スポーツクラブ)とスポーツ推進委員のかかわり」としました。ディスカッションを行う前に、SSC設立当初の話や経緯を聞きました。

前回同様、様々な意見が出るなかで中立の立場を保ち、円滑な会議を進めていくことの難しさを体験しました。ただし、その場合においても、この研修をとおして、話し合いの中でより良い意見を導き出すことができるようになりました。

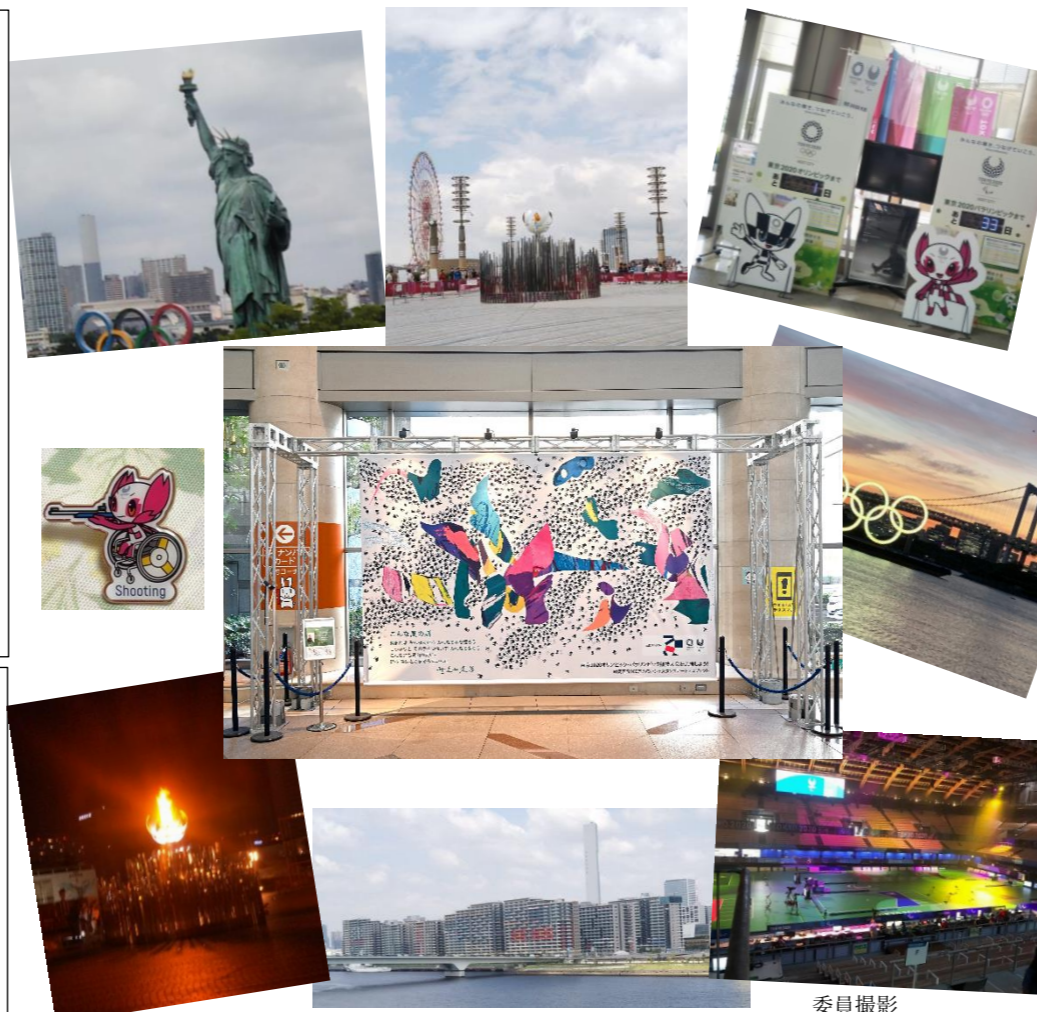
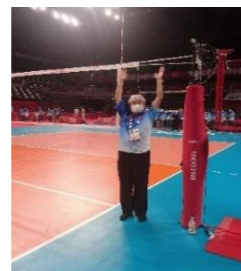


練馬区スポーツ推進委員会は引き続き、自己研鑽を行っていき、地域スポーツ振興に寄与してまいります。

台場の潮風公園にあるビーチバレー会場のPEM (人材管理)というセクションで、ボランティアのチェックイン管理と食券・食堂の管理を行った。朝の6時から夜の23時まで開いている会場で、多くのボランティア達が活躍する姿を見ることが出来た。自分はリーダーという立場で地域も年齢も職業もボランティア経験も異なる皆と楽しく活動できた。日々新しいアイデアを出し合い改善され、充実した活動場所であった。毎日青いユニフォームに身を包みお台場の五輪の下、仲間達と活動した日々は生涯忘れられない思い出になった。数年前から楽しみにしていたビックイベントでの活動であったが、期待した以上にインパクトがあり、やり甲斐のあるものになった。コロナ渦で開催へ尽力された全ての方々に最大の賛辞を贈り、この機会を得られたことに深く感謝し、今回得た経験や知識を練馬区のスポーツ振興に活かしていきたい。(大野)



有明アリーナで行われたバレーボールで12日間フィールドキャストとして活動しました。仕事の内容はプレスオペレーションで記者・フォトグラファーの対応や環境提供でした。記者の方々は試合開始の3時間前から終了4時間後までいて私はその会場となる「ベニューメディアセンター」で早番は6時から、遅番は15時から、9時間と時間的にもきつい仕事で各国のメディア関係者の方々のサポートをしました。大変な中でもコートに入れたり、選手・記者会見や表彰式を間近で見たりでき、ボランティアをしなければできない体験をしました。会場の周りは地元の小学生が育てた沢山の「朝顔」の鉢が選手を歓迎しており、無観客でも迫力は十分でしたが、その小学生達だけでも会場で見せてあげたかったと思いました。パラリンピックの方は学校連携のサポートをして、子ども達の喜びを直接感じることができました。(杉本)



東京スポーツスクエアでシティキャストとして活動してきました。大会期間中のメディアの取材拠点として情報を世界へ発信する施設「東京都メディアセンター」の一角にある一般の方々が来場するPRスペースで会場案内として活動しました。活動はグループごとに交替して行っていましたが、私の前のグループに東京都スポーツ推進委員協議会副会長がおいでになり偶然の再会に驚きました。数時間の活動でしたが、メディアセンターからの発信も間近に見ることが出来、楽しく活動しました。(庄司)



ボランティアとして参加した理由は、人生4回目の国内開催のオリンピックにして、自分自身にとって最後になるであろうこの大会に何らかの形で携わりたかったからです。活動内容はドライバーとして大会関係者(主に各種競技の審判員)の送迎(ホテル→競技場→ホテル)を行いました。そのほか裏方の業務として、水素自動車の水素補給と洗車、バッテリーが上がらないよう1~2時間空車走行も行いました。開催の賛否があったとはいえ、ボランティアとして参加出来た事はいい思い出となりました。(大越)



TOKYO2020 私達も尽力しました

聖火リレー
練馬区スポーツ推進委員会は、区内のオリンピック聖火リレーに、沿道整理等のボランティアとして参加する予定でしたが、公道でのリレーが中止となったことから、ボランティア活動も中止となりました。聖火リレーの点火セレモニーは、練馬総合運動場公園にて無観客で行われました。



パラリンピック・ポッチャ会場の有明体操競技場で会場の警備にあたりました。競技場の通路や観覧席の警戒、競技中は警戒本部に詰めました。最寄り駅から競技場周辺は人通りがまばらで、関係者しか見かけませんでした。アリーナを取り囲む観客席を見渡すとコロナ渦とはいえ少しだけ残念な気持ちになりました。(内田)



消防団の仲間と

シティキャストとして、ボランティア活動を楽しみにしていましたが、無観客大会となり、活動がキャンセルとなったり、短時間になったりした委員もいました。

お台場海浜公園のトライアスロン会場でフィールドキャストとして活動しました。個人種目はプロムナード、リレーは海浜公園駅前でバイクコースの横断ポイント担当でした。レースは早朝に終わり熱中症等の心配はありませんでしたが、コース設営が始まる朝3時頃から守備位置に立つため2時前後の集合となりました。終電で行って2時間近く待機するより、と可能な日は自転車で通いました。メンバーの多くが現役で大会参加を続けている人や全国のトライアスロン大会で役員をしている人で共通の話題が多く楽しく活動できました。日頃スポーツに関わる者として、開催に賛否ある中、トップアスリートのかになりスポーツ振興の役に立てたという思いを遂げられた気がしています。(西坂)



都庁に設置された大会シンボル・マスコット像周辺における来場者への声掛け、マスコットやシンボルマークと一緒に写真を撮るお手伝い、ユニフォーム等の展示物の説明をしました。ご夫婦が遠方に住んでいるお孫さんに全ての写真を送ってあげると言いながら嬉しそうに写真撮影している姿が印象的でした。また、来場者とコミュニケーションをとる事がとても楽しかったです。活動範囲は限られていましたが、1時間の活動時間がとても短く感じる位充実していました。(林)



S S Cの仲間と

パラリンピック最終日、早朝3時に活動を開始したマラソン。小雨が降る中、どの方も笑顔で活動をされていました。走者と沿道の応援、私達ボランティアとの一体感が感じられなんととも言えない空間を体感でき、私にとって一生の思い出となりました。ボランティアリズムという言葉を強く感じた楽しい1日でした。(太田・茨田)

